

知行合一

学校教育目標

潤いと輝きにあふれる学校

芦北町立田浦中学校

学校だより 第4号

令和2年6月8日

文責 校長 沖田 龍藏

「己の欲せざる所は人に施すことなかれ」(論語百選P66)は、「(自分がしてほしいことは人にもしてあげる、)自分がしてほしくないことはしない。」

学校が本格的に再開、子供たちの学習面や生活面の不安解消を目指します。

今週は、学校再開にあたり、蒲島熊本県知事、古閑熊本県教育長から、中学生及び保護者の皆様に、メッセージ(文書及び本校ホームページで紹介)が届きました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止として、中体連大会や吹奏楽コンクール等が中止となりました。

しかし、感染症終息へ向かいつつある現状に変わりがなければ、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分にとった上で、3年部活動の練習成果を発揮できる練習会や代替大会ができないかということを探求中です。生徒は、大会中止のつらさや悔しさを抱えながらも、朝練習や夕方の練習に汗を流していました。自分なりに気持ちの切り替えをしている姿を今週は見る事ができました。

知事のメッセージにあった、「読書の大切さ」について、知事自身が少年時代にたくさんの本を読み、自分が経験していないことや、知らない世界を本によって想像し、それがいつしか自分の夢につながっていったとありました。本校でも、地域コーディネーターの大木さんらに地域学校協働本部事業として、小学校での読み聞かせや図書室のレイアウト等を通して、読書に親しませる活動に取り組んでもらっています。私も五木寛之や夏目漱石などの好きな作家がいますが、(大学時代、ゼミの先生からも、社会人になってからの「読書の大切さ」はよく聞かされたました。)読書の時間をもつようにしています。

朝、正門に立って、生徒と挨拶を交わしていると、片手に本も持っている生徒も見かけます。時々、親子でも読書の話が出るというですね。

また、本町は、論語教育のみならず、情操教育(美的情操)にも力を入れており、星野富弘美術館には、県内外の児童生徒作品、一般作品、星野さんの作品が展示してあります(ホームページでも紹介)。週休日には、家族で行ってきましたが、娘(二女)も絵が好きなので喜んでいました。

本校に着任して、玄関からすぐ目に入るのが、右手の壁面に描かれた有名な画家の模写作品です、2000年制作(当時の美術部員)の記録が残っています。

学校再開後は、生徒の学力保障をしていく上で、宿題点検とやり直し等の個別指導を通し、わからない点をなくす取組を行ったり、担任による教育相談をしたりしながら、長期休校中の不安感を和らげるように努めています。引き続き、学校での消毒は行いますが、ご家庭でも検温、マスク着用の確認をお願いします。何かご相談があります時は、遠慮なく、学校に連絡をさせていただきます。

ホームページで情報発信『**芦北町立田浦中学校**』で検索を

芦北町では、論語教育に力を入れています。若い頃に、貧しい日々を送っていた孔子は、食べられない苦しさを知っていて、高い志も必要ですが、まずは安心して食べられる生活をする事が大切と教えています。将来、自立して生活をしていく上で、義務教育で学ぶ意義を諭しているようにも思えます。



『王の悲しみ』 1952年(292×396cm)

アンリ・マティス(1869~1954)

ピカソと同じく、20世紀を代表する画家の1人。19歳になってから絵を始める。しばらくはフォーブ(野獣派)の中心的存在として活躍するが、「明快な表現力と色彩の組み合わせで、独自の画風を作り出した。」

この作品は、早い時代の生活を余儀なくされたマティスが、切り絵の手法で制作した頃の作品である。「切り絵は、色彩で描くことを可能にしてくれた。」とマティスは言っている。デザインは全く抽象的だが、あちらこちらに人物像らしきものが表現されている。マティスはレンブラントのサルウとダビデの絵をヒントにしたのだろう。若いダビデが悩めるサルウを音楽でなぐさめる話である。

この絵では、王自身が明らかにギターと思われる楽器を手にしている。

模写した人たち 2000年度田浦中美術部

3年吉野雄志 1年野口康輔 井樋口恵美 浪崎進美